

守山まるごと活性化プラン検討委員会
第5回 学区別会議（玉津学区）

日時：平成25年11月6日（水）

19：30～21：30

場所：玉津会館

次 第

1. あいさつ
2. 説明
 - 本日の進め方
 - 第4回のふりかえり
3. 意見交換
 - プロジェクトの絞り込み
 - 取り組み実現の方向
 - まちづくりのテーマ
4. 今後の進め方
5. 一言感想

守山まるごと活性化プラン検討委員会（学区別会議）委員名簿

【 玉津学区 】

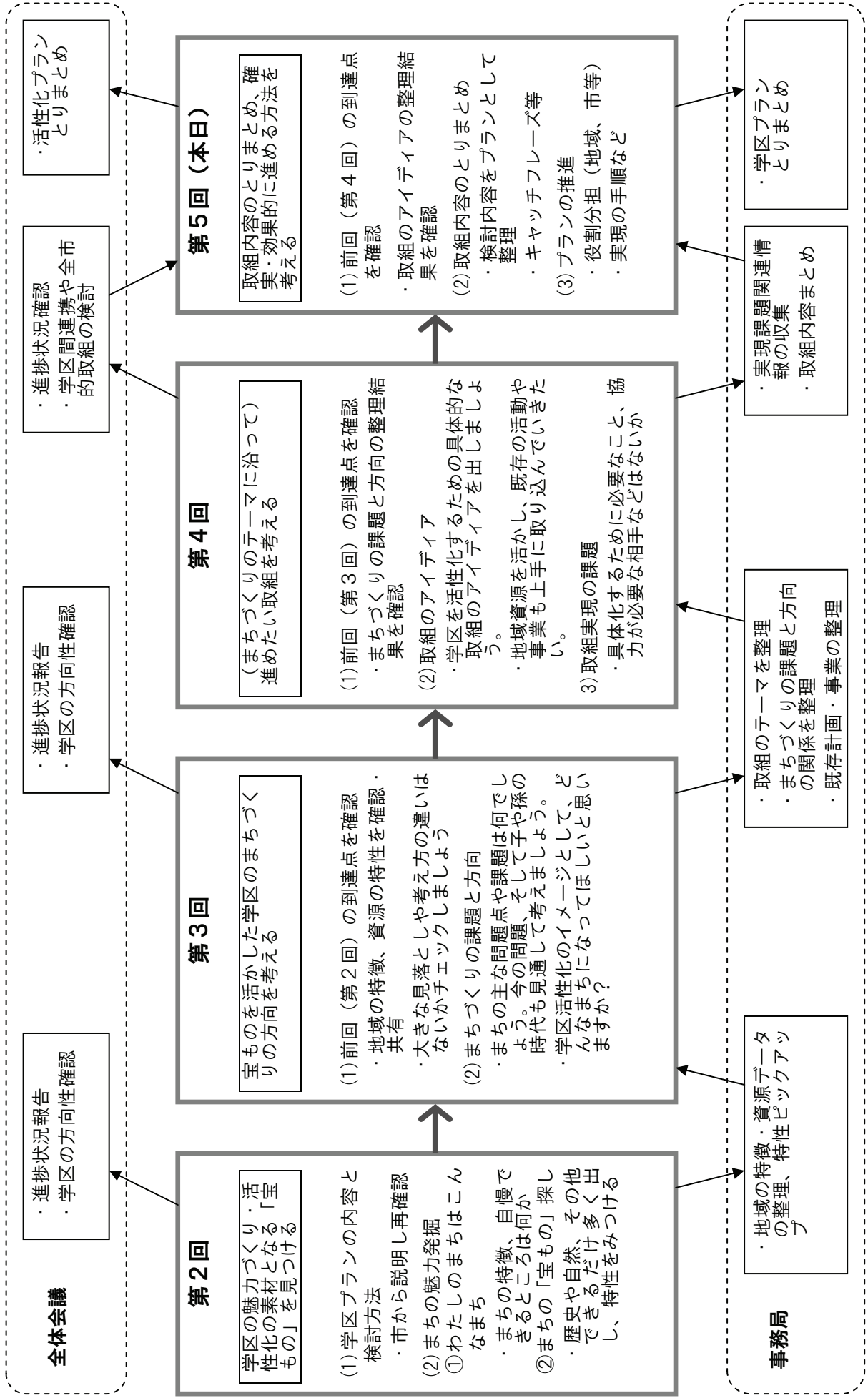
H250724 現在 敬称略

No.	自治会	名前	
1	赤野井	谷口 喜久	たにぐち よしひさ
2	赤野井	赤井 武志	あかい たけし
3	赤野井	堀井 久嘉	ほりい ひさよし
4	赤野井	田中 善也	たなか よしなり
5	赤野井	徳地 智映	とくち ちあき
6	矢島	林 俊行	はやし としゆき
7	矢島	北野 進	きたの すすむ
8	矢島	藤田 康彦	ふじた やすひこ
9	矢島	大塚 美和	おおつか みわ
10	石田	赤井 清司	あかい きよし
11	石田	金野 弘子	こんの ひろこ
12	石田	澤田 文子	さわだ ふみこ
13	石田	中西 清重	なかにし きよしげ
14	十二里	荒木 勝司	あらかき かつじ
15	十二里	十二里 勝美	じゅうにり かつみ

事務局

- ・ 濱崎一志（アドバイザー：滋賀県立大学 人間文化学部教授）
- ・ 松岡 幹雄 ・ 鈴木 文男 ・ 松山 正
- ・ 坪内 稔夫 ・ 吉原 史雄 ・ 足立 慎也
- ・ 奥村 彰彦 ・ 田淵 誠一 ・ 小野田 敦 ・ 貞松 純子

学区別会議の進め方



守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 4 回 学区別会議 [玉津学区]

平成 25 年 9 月 18 日（水）午後 7 時 30 分から玉津会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 4 回学区別会議を開催しました。

玉津学区にお住まいの住民 14 名で、まず前回会議で出された学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について、大きな見落としがないかなどふりかえりました。次に、学区のまちづくりの具体的取り組みについて話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：谷口学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 3 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回のふりかえり』、
『学区のまちづくりの取り組みを考える』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました

テーブル毎に玉津学区の『まちづくりの具体的取り組み』について話し合いました

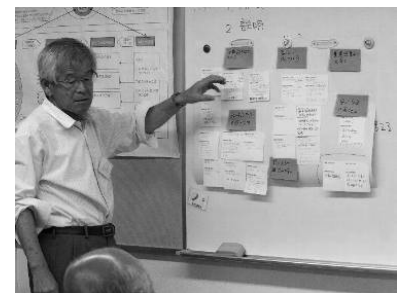
- 3つのテーブルに分かれ、前回会議で出された『玉津学区の課題・活性化の方向性』の再確認を行い、そこで出された意見をもとにして、学区の活性化の取り組みを話し合いました。
- 『具体的な取り組み』としては、「今住んでいる人の生活を守るため、安全・安心のまちづくりの推進、人と人との交流の促進、少子化対策の充実などの取り組み」、「新しい人を受け入れるための地区計画の策定、調整区域の見直し」、「地区を活性化するための楽しいイベントの実施」、「伝統ある資源や行事を活用した学区の PR」、「琵琶湖・赤野井湾・河川という水のネットワークを活用した特色ある学区の整備」、「メロン・矢島かぶら・鮎寿司などの特産品を活用した取り組み」など、幅広いアイデアが出されました。
- 特色ある地域資源をどのように活かしていくのかという点から議論がなされましたが、「住んでいる人自身も楽しめる取り組みが重要」、「イベントなどは学区全体で行い学区がまとまるのが重要」、「学区のことを“知ってもらふ”、“興味を持ってもらう”、“来てもらう”という一連の取り組みが重要」など、学区のまちづくりの理念にもつながる意見も出されました。



▲多くの意見が出されました



▲意見を整理していきます



▲成果を発表し参加者で共有

■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

TEL：079-582-1162 e-mail：miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山まるごと活性化計画 学区別会議実施記録 第4回

1. 実施概要

学区・回	玉津学区 第4回
日時	2013年9月18日(水) 19:30~21:30
会場	玉津会館
参加者	住民14人(赤野井4人、矢島4人、石田4人、十二里2人) 守山市(松岡、鈴木、松山、坪内、吉原、足立) 地域未来研究所(奥村、田淵、小野田、貞松)
会場設営	3テーブルを配置。くじでテーブルを指定して着席
実施経過	<p>1. 挨拶</p> <p>①開会挨拶(坪内課長補佐)</p> <p>②開会挨拶(谷口学区長)</p> <p>2. 説明</p> <p>①本日のプログラム内容(奥村)</p> <p>②第3回検討結果の説明(奥村)</p> <p>3. 意見交換(テーブル別ワーク)</p> <p>①前回のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議結果(課題・活性化の方向性)を整理した資料を見ながら、抜けているたからものの追加、分類の再検討を行った。 ・課題項目としての「人口減少・少子高齢化」については、他の多くの課題を生み出す背景課題をなっているため、「地域産業の衰退」や「地域の伝統・行事・活動の担い手不足」、「人と人のつながりの希薄化」などを包含する課題としての表記が必要という指摘がなされた。 ・活性化の方向性としては、「新しい人が住みたい、入りやすいまちづくり」について、「今住んでいる住民が、今後も住み続けたいと思うまちづくり」も重要との指摘があった。このため、この項目には「住民が住み続けたいと思うまちづくり」という意味を付加した表現に変える方向で合意した。 ・また、「伝統ある行事を伝え、みんなが共感できるまちづくり」の項目について、琵琶湖や歴史的資源を活用して地域を活性化する取組も重要との指摘があった。 ・その他、「学区の課題」および「学区の活性化の方向性」について、新たな追加項目の指摘があり、資料にそれらを反映させることとなった。 <p>②学区のまちづくりの取り組みを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の課題とまちづくりの方向性をもとに、具体的なまちづくりの取組のアイデア出しを行った。 ・提案されたアイデアは多岐にわたるが、①今、住んでいる人を守る、②新しい人を受け入れる、③伝統を生かして地区の活性化を図る、④玉津の特産物を活用す

る、⑤水のネットワークを生かす、⑥地区の若い人が語り合える場の創出、⑦老後も安心して楽しく暮らせる地区を目指す、⑧自然（水や生物）を守り活かす、⑨学区全体でのイベント・祭りによる活性化などのアイデアが提案された。

- ・取り組みのアイデアカードは模造紙に貼り、グルーピングして概略の特徴を整理した。

4. 結果の発表・共有

- ・テーブル毎に参加者の代表が学区のまちづくりの取組について参加者の様々なアイデアを発表し、共有化した。

5. その他

- ・次回会議の開催日時は、11月6日（水）19:30～玉津会館にて開催が決定された。

第3回玉津学区会議の様子



2. 第4回学区会議の意見まとめ

玉津学区のまちづくり活性化の具体的な取り組み（アイデア）をまとめた。

<玉津学区のまちづくり活性化の具体的な取り組みの主な提案例>

■玉津の歴史・伝統活用プロジェクト

- ① 歴史、伝統の語り部等の育成と活躍の場づくり（高齢者の活躍の場としても）。

■玉津のお宝発見プロジェクト

- ② 玉津学区の神社仏閣を巡る歩こう会の開催（ツアーの開催）。
- ③ 一般の人にもわかりやすい地域資源の説明看板の設置。

■赤野井湾再生プロジェクト

- ④ 赤野井湾の漁業の観光資源化→琵琶湖～諏訪屋敷を結ぶ水運遺構の整備。
- ⑤ 子どもの自然体験基地としての整備（カヌー、田舟、キャンプ、魚つかみ、投網体験等）。

■琵琶湖の水辺を楽しむプロジェクト

- ⑥ 湖周道路の設定、体力づくりコース、リーダーの育成。

■玉津ホタル祭り推進プロジェクト

- ⑦ 天神川をホタルの保護区として整備・PR → 運動公園までの来訪者を玉津まで呼び込む。
- ⑧ 守山地区のホタル祭りを玉津学区にも拡大。

■みんなで玉津を盛り上げようプロジェクト

- ⑨ 市民運動公園を活かしたスタンプラリー・クイズ等のイベント開催、フリーマーケット開催。
- ⑩ 一本こうじ相撲大会の開催。

■玉津の特産品活用プロジェクト

- ⑪ 守山メロンを活用したスイーツの開発、スイーツグランプリの開催。
- ⑫ 玉津の特産品を活用した料理教室・試食会の開催（矢島かぶら、赤野井ういろ等）。

■食の地産地消推進プロジェクト

- ⑬ 琵琶湖の魚の地産地消の促進。

■玉津の行事・イベントPRプロジェクト

- ⑭ 伝統行事・イベントなどを一つのパンフレットでPR。

■住民の安心・安全創出プロジェクト

- ⑮ 少子化対策・子育て支援の場、住民交流の場づくり、住民の集いの場・生きがい形成。

■定住促進プロジェクト

- ⑯ 地区計画の策定、調整区域の見直し、学区全体での生活慣行見直し。

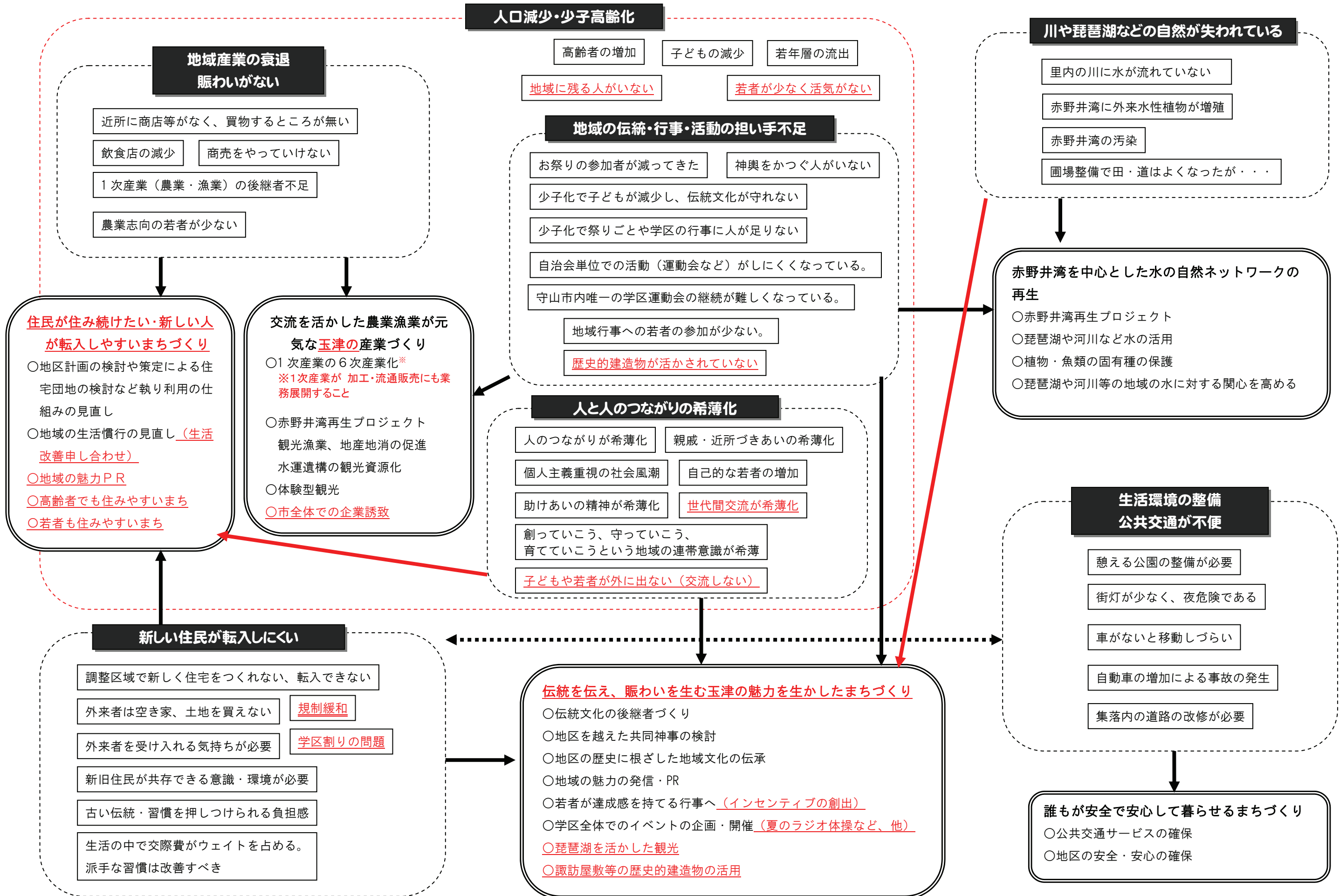
2.1 学区のまちづくりの取り組みのアイデア（個別）

分類	活用するたからもの	活性化の取り組み
玉津の歴史・伝統活用プロジェクト	学区内の歴史・伝統（お寺や神社、祭など） 東・西別院（赤野井）、少林寺（矢島） お宮さんの自然素材（十二里） 伝統的な文化や言い伝え・歴史資源	歴史・伝統の語り部等の育成と活躍の場づくり（高齢者の活躍の場としても） 住民による利用促進・学区としての活用（東・西別院） 一休和尚が開祖の少林寺を一般公開して拝観してもらう（沢山の宝物がある） 自分たちで集めた自然素材でつくる「しおり・おもちゃづくり」 伝統的な事をよく知っている方が語り部となって、子供会、婦人会等で伝統を伝えていく。伝統文化の後継者づくり
玉津のお宝発見プロジェクト	神社・仏閣・史跡・文化遺産等 学区内の名所	玉津学区の神社仏閣を巡る歩こう会の開催（ツアーの開催） 諏訪屋敷 → 川をさかのぼっていくアプローチ 一般の人にわかりやすい説明看板の設置
赤野井湾再生プロジェクト	美しい田圃や畑（休耕田） 赤野井湾・内湖・水路	名所発見のスタンプラリーの企画 老後も元気に楽しく過ごせる場づくり スローライフのPR 市民農園による生きがいづくり、仲間づくり、居場所づくり、社会貢献 赤野井湾の漁業を観光資源化して漁業を盛り上げる。 →琵琶湖～諏訪屋敷を結ぶ水運遺構の整備
	NPO法人と手を組んで外来種植物の除去を授業の一環にしたり、子供たちが楽しんで地域の“たからもの”を五感を使って知るきっかけをつくる。 環境整備でモロコヤやフナが釣れるように。 観光漁業、赤野井湾ウォッチャー（外から来ていただく） 探検ツアーの企画→学区の子ども会、保護者が計画して実施。 子供の自然体験基地としての整備（カヌー、カヤック、田舟、キャンプ、魚つかみ、魚釣り大会、投網体験）	NPO法人と手を組んで外来種植物の除去を授業の一環にしたり、子供たちが楽しんで地域の“たからもの”を五感を使って知るきっかけをつくる。 環境整備でモロコヤやフナが釣れるように。 観光漁業、赤野井湾ウォッチャー（外から来ていただく） 探検ツアーの企画→学区の子ども会、保護者が計画して実施。 子供の自然体験基地としての整備（カヌー、カヤック、田舟、キャンプ、魚つかみ、魚釣り大会、投網体験）
	湖岸の歴史と文化の記憶	屋形船ツアー（草津のハスも取り込む）

分類	活用するたからもの	活性化の取り組み
琵琶湖の水辺を楽しむプロジェクト	水に関わる自然・緑	琵琶湖周道路沿いにボンボリ・照明等、自治会の交代制により実施。環境、住みやすさ、心の安らぎを創出する
玉津ホタル祭り推進プロジェクト	琵琶湖・湖岸・河川 ホタル、ホタル祭	湖周ロードの設定、体力づくりコース、リーダーの育成 天神川をホタルの保護区として整備・PR ← 運動公園までの来訪者を玉津まで呼び込む ※ホタルの森のノウハウ活用、水量の確保 小学生活動のホタル育成との連携
みんなで玉津を盛り上げようプロジェクト	市民運動公園	現在の守山地区のホタル祭を玉津学区にも拡大。→ 全国的にPRして誇れる行事にする。 運動公園全体を使った“たからもの探し大会”などのイベント企画 スタンプラリー・クイズ等のイベント開催 (運動公園で実施されている人が集まるフリーマーケットと連携して、スタンプラリーやクイズを神社や寺に設けて、クリアしたら特典付与。)
	明見の郷公園	公園内の天神川を利用(せき止めて)魚つかみ大会などのイベント開催(川に入りやすく整備されている)。 釣った魚の調理イベント(公園で)→湖魚調理実習
	地域の神社、諏訪屋敷など	地域の人のためのフリーマーケット → 地元の産物(米)などを提供。
	学区民のつどい 祭・行事	フリーマーケットの実施 学区全体の夏祭り等(小学校・地域総合センターで)→守山学区の夜市のようなもの 一本こうじ相撲大会(各自治会の協力による共同開催・同時開催、参加者は男性・女性・子供など様々で実施)
長刀祭		昔の映画会、盆踊り、夏祭り、盆踊り、ビンゴ大会 守山全体の祭に立て直す(他地区からの参加) 全国的に誇れる行事にする。 集落共同出演による見学者の増加(交流)を得る。→学区全体で参加者を増やす。

分類	活用するたからもの	活性化の取り組み
玉津の特産品活用プロジェクト	守山メロン 矢島カブラ、赤野井うる等の特産物 畑（作物をつくれる場所）	守山メロンを活用したスイーツ開発、スイーツグランプリの開催 玉津の特産物を活用した料理教室の開催 試食会の実施 → みんなの認識を深める（子供たちも含めて） 自然の恵み感謝祭、農産物の品評会 ※ハロウィンの時期のかぼちゃづくり
食の地産地消推進プロジェクト	琵琶湖 神社・仏閣・歴史遺物・伝統行事など	琵琶湖の魚の地産地消の促進 伝統行事・イベントなどを一つのパンフレットでPR 各たからものを結んだ歴史街道マップ（歴史探索コース）をつくり、年間イベントを組む。 各自治会で実施しているイベントを年間に振り分け実施 → 単発的イベントを協力して実施。
住民の安心・安全創出プロジェクト	ななまがり（石田） 助け合い活動・高齢者に対する思いやり ななまがり（石田）などの地域の集いの場・子育てサロン	高齢者を中心に集える場→近くで地域の人が集まれるきっかけ（当番制で） 誰もが安心安全なまちに住みたくなくなるような、町中の道路整備や住宅地の確保。そのことを市内にPRして新住民を受け入れる。 少子化対策・子育て支援の場、住民の交流の場づくり、住民の集いの場・生きがい形成
定住促進プロジェクト	災害の少ない地域 制度・慣習の改善	企業誘致による若者の勤務地をつくる。 地区計画の策定、調整区域の見直し、学区全体で生活改善見直し（矢島のように）→少子化対策・定住促進対策として
その他	各種行事 若者 助成金制度	行事の定期化 行事の企画・実施、中高生の段階に地域での行事に興味（参加）を持たせる。 若い人が将来のまちづくりを話し合う場をつくる。 高齢者には敬老の日にお祝いを出す→子供が生まれたらお祝い金を出す

玉津学区の課題・活性化の方向性



(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。赤字は第4回会議での追加・修正意見

守山まるごと活性化プラン（玉津学区）の取組内容について

1. 玉津学区の将来像のテーマ（案） → 1案に絞る

- 案1：玉津の伝統文化を活かし、先人の暮らしの知恵を子供たちに引き継ぐまち
- 案2：誰もが羨む“ひと・まち・暮らし”、玉津は全員参加でそんなまちをめざします。
- 案3：“五感”で楽しめるまち 人が集うまち 玉津！
- 案4：水運遺構や古街道、農村生活文化など地域の個性が輝くまち 玉津

2. 玉津学区の住民主体のまちづくりプロジェクト（案）

■プロジェクト1 諏訪屋敷再生・活用プロジェクト

玉津学区の貴重な文化財である赤野井の諏訪屋敷の再生を図り、まちづくりの拠点として活用するとともに、地域住民やボランティアが主体となって活用方策の検討、維持管理を行うことにより、地域のまちづくり活動の担い手の育成の場としての利用を進めます。

●取組1 諏訪屋敷を活用した住民主体の憩いの場づくり

- 諏訪屋敷を市民が集う場として再生
- 住民が主体となったまちづくり拠点としての活用方策の検討
- 地域住民・ボランティアによる維持管理・運営

●取組2 諏訪屋敷を軸とした農村文化まるごと体験

- 河川や琵琶湖、諏訪屋敷などの古民家を活用したまちづくりの推進
- 農産物生産や薬材の植え付け、茶室の活用による農村文化の伝承
- 地域住民がもてなす体験型観光プログラムの内容検討と試行

■プロジェクト2 玉津の歴史・伝統文化活用プロジェクト

東・西別院、少林寺、両宮神社（天満宮・若宮神社）、武道天神社をはじめとする玉津の歴史を今に伝える数多くの神社・仏閣、歴史文化資源を生かし、玉津の魅力を学区内外の人によりよく知ってもらうとともに、住民が誇りをもって、歴史・伝統・文化を次代に引き継いでいける仕組みをつくりまします。

●取組1 歴史・伝統文化の語り部の育成と活躍の場づくり

- ・歴史・伝統・文化資源の情報整理と共有化
 - 文献整理、写真記録、言い伝えの掘り起し、神社・お寺との連携など
- ・玉津の歴史・伝統・文化の語り部の育成
 - 玉津のみどころ達人養成講座、玉津検定プログラムの作成など

・玉津の語り部が活躍できる機会づくり

→老人クラブ・婦人会・子供会等との連携、守山市のイベントとの連携、案内拠点（窓口）の設置など

●取組2 玉津の伝統文化の遊びを次代に伝える仕組みづくり

→子供を対象にして、地域の神社・仏閣、鎮守の森の自然素材で作る「しおり、おもちゃづくり」等のイベント実施など

■プロジェクト3 玉津お宝発見プロジェクト

玉津学区の名所を選定するとともに、隠れた名所（知る人ぞ知る名所）を発掘し、多くの人に玉津の魅力を楽しんでもらう住民参加型の仕組みをつくります。

●取組1 玉津の隠れた名所の掘り起しと名所選定、手作りツアーの実施

→玉津を歩こう会・お宝発見ツアーの開催、ガイドブックの作成、継続イベントの企画、散策場所のわかりやすい説明板の設置など

●取組2 水辺の遊歩道づくり

→琵琶湖から天神川をさかのぼって諏訪屋敷まで行ける遊歩道の整備、散策コースの整備、案内看板の設置、遊歩道を花で飾る住民活動など

●取組3 遊休地等の地域資源を活かした住民の生きがい・仲間づくり・交流の促進

→市民農園等の整備、手作り農産物の品評会・即売会、フリーマーケットの開催、スローライフの情報発信など

■プロジェクト4 赤野井湾再生プロジェクト

湖岸の歴史と生活文化の記憶を今に伝える赤野井湾の水運遺構（えり市、えり寅、湊屋、廻船問屋、田舟、えり漁法）を再生・活用して、多くの人が琵琶湖の歴史と生活文化を学べる機会を創出するとともに、赤野井湾漁業を観光資源化して湖岸の集客を図り、地域の活性化につなげます。

●取組1 赤野井湾漁業の観光資源化

→観光漁業の導入、赤野井湾ウォッチャー（外から来ていただく）
→屋形船ツアー（草津のハスも取り込んだ観光ツアー）など
→モロコヤフナが釣れるような水環境の整備

●取組2 水運遺構の整備・活用

→水運遺構の発掘・再生、案内情報の提供
→琵琶湖～諏訪屋敷を結ぶ水上の散策コースづくり

■プロジェクト5 琵琶湖の自然満喫プロジェクト

琵琶湖・内湖・川、そこに生息する動植物と営みの蓄積を生かして、学区内外の人が自然環境を満喫しながら、心身の健康づくりを実現できるような環境整備を進めます。

●取組1 五感を使った琵琶湖の自然を学べる仕組みづくり

- NPO法人と手を組んで外来種植物除去を授業の一環にしたり、子供たちが楽しんで地域の“宝もの”を五感で知るきっかけをつくる。
- 子供の自然体験基地としての赤野井湾周辺の整備（カヌー、カヤック、田舟、魚つかみ、魚釣り大会）
- 探検ツアーの企画（学区の子供会、保護者が主体となり計画して実施）など

●取組2 琵琶湖湖岸の集客スポットづくり

- 湖周道路の賑わいの創出（ボンボリ・照明などを自治会の協力で実施）
- 湖周ロードの設定、体力づくりコース、健康づくりリーダーの育成
- 美しい琵琶湖を眺める心の安らぎスポット、恋と出会いのスポットの整備、マザーレイク実感スポットの整備など

■プロジェクト6 玉津ホタル祭り推進プロジェクト

守山市のシンボルでもあるホタルを全市的に広めていくため、学区内でのホタル保護区を設定、環境整備を行って、運動公園までのホタル観賞観光客を玉津学区まで呼び込める仕掛けをつくります。

●取組1 天神川などをホタルの保護区として整備・PR

- 水量の確保、ホタルの森のノウハウの活用、小学校のホタル育成との連携強化 など

●取組2 玉津ホタル祭りの企画

- 現在の守山地区のホタル祭を他学区（玉津学区含む）まで拡大し、全市をあげてのホタル祭りとして盛り上げる
- 全国的にホタル祭りをPRして、市民が誇れる全市的行事に拡大 など

■プロジェクト7 みんなで玉津を盛り上げようプロジェクト

玉津学区の各自治会が連携し、市民運動公園や地域の神社、諏訪屋敷などの名所を活用し、伝統ある祭りや学区民の集いなどの機会を通じて、玉津を学区民全体で盛り上げるイベントを推進します。

●取組1 みんなで楽しむイベントの企画

- 運動公園全体を使った“宝もの探し大会”などのイベントの開催
- スタンプラリー・クイズ等のイベントの開催（運動公園で実施されている人が集まるフリーマーケットと連携して、スタンプラリーやクイズを神社や寺に設けて、クリヤしたら特典を付与）
- 運動公園の天神川を利用した魚つかみ大会などのイベントの開催、釣

った魚の調理イベント（湖魚調理実習など）
→学区の神社や名所（諏訪屋敷など）などを活用した地域の人のための
フリーマーケットの開催（地元の産物などを提供）など

●取組2 伝統ある行事を盛り上げる

→長刀祭などの伝統ある祭りを守山市全体の祭りに立て直す。
（他地区からの参加者を募る）、集落共同出演による見学者の増加（交流）
→一本こうじ相撲大会（各自治会の協力による共同開催・同時開催、参
加者は男性・女性・子供など様々な人を想定、新しい企画）
→昔の映画祭、盆踊り、夏祭り、盆踊り、ビンゴ大会など自治会の連携
による、季節・時期を合わせた学区としてのリレーイベントの開催など

●取組3 玉津の行事・イベントのPR

→伝統行事・イベントなどを一つのパンフレットでPR（自治会で協力
して企画）
→各自治会の“宝もの”を結んだ歴史街道マップ（歴史探索コース）を
作り、年間イベントを組む
→各自治会で実施している各種イベントを年間に振り分け実施する。単
発的イベントを協力して実施など

■プロジェクト8 玉津の特産品活用プロジェクト

地区の特産物を活用して、新たな加工品・商品を開発するとともに、その過程をみんなで楽
しめるイベントとすることにより、地域の地場産業の活性化を図ります。

●取組1 地域の新しい特産物の開発

→守山メロンを活用したスイーツの開発、スイーツグランプリの開催
→矢島かぶら、赤野井ういろなどの玉津の特産物を活用した料理教室の
開催、試食会の実施（子供会行事とのタイアップ）
→遊休地を活用した市民農園の作物などを活用し、自然の恵み感謝祭、
手作り農産物の品評会、ハロウィンの時期のかぼちゃづくりなど

■プロジェクト9 食の地産地消推進プロジェクト

地元の農産物の利用を促進し、地域の第1次産業を活性化するため、新鮮・安全・作り手の
顔の見える安心食材の地産地消を推進します。

●取組1 湖魚の地産地消の促進

→モロコ・鮎・ブラックバスなどの琵琶湖の湖魚のメニュー開発、
料理教室の開催、地元の食材によるグルメイベントの開催など

●取組2 地元農産物の地産地消の促進

→地元での作った野菜の料理教室、品評会の開催、グルメイベントの開
催、共同チームによる直場所等への出品検討など

■プロジェクト10 住民の安心・安全創出プロジェクト

子供やお年寄りが安心して暮らせる地域をめざすため、助け合い活動、見守り活動、お年寄りの居場所づくり、子育て支援活動などの住民同士の温もりのある互助活動を進めます。

●取組1 高齢者の居場所づくり

→高齢者を中心に住民が集える場の整備（石田の“ななまがり”のような地域の人が集まれるきっかけの場所）など

●取組2 地域の安全・安心創出活動

→地域の安全・安心の創出に向け、自治会・婦人会・老人会といった地域組織と行政、警察、消防等との関係団体との連携・協力体制の充実など

■プロジェクト11 定住促進プロジェクト

少子高齢化が進む社会情勢を念頭に、地域の活性化に向け、新しい住民の受け入れ態勢、今住んでいる人がより住みやすくなるよう社会慣行のあり方を、地域が主体となって見直します。

●取組1 地区計画の検討・調整区域の見直し

→地域のあるべき姿を住民同士が検討・共有化し、地域の活性化に向けた地区計画の策定の検討、調整区域の見直しなど、行政と一体となった取り組みの推進など

●取組2 生活慣行の見直し

→社会環境の変化に対応し、地域住民がより住みやすくなる地域の社会慣行のあり方の協議、必要な見直しに向けた取り組みの推進など

●取組3 将来のまちづくりに向けた協議の場への若者の参加促進

→将来の玉津のまちづくりを若い人と一緒に進めるため、若い人も参加しやすい協議の場の工夫など